

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1170500407		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム白岡		
所在地	埼玉県南埼玉郡白岡町高岩65-1		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成24年2月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

畑では、さつま芋を作り、外回りの木も伐採し、明るくなりました。 また花を増やし、環境作りを心掛けています。ケアでは、蕎麦打ちや手作りおやつをみんなで作った り、個々では、習字や将棋などしてゆっくりとした時間を過ごしています。
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は市郊外の閑静な住宅街にあるが、自然に恵まれ落ち着いた環境にある。庭の畑では、サツマイモ・トマト・茄子等を育てており、これらを収穫し、食材として利用したり、おやつ の時に食べている。居住スペースは、利用者の安全と快適さ、介護者の動線を考慮した造りで、 一人ひとりが居心地良く生活できるように工夫されている。職員は、ケアサービスの質の向上 に取り組んでおり、個々の希望に合わせた時間に入浴することができる。その人らしく、当 たり前の生活ができるよう支援している。夏祭りや落語会等を通し、地域の人々との交流を楽し んでいる。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼をホーム内で実施して、理念の唱和を実施したり、掲示することでスタッフ同士入居者様に心地良い生活を送って頂ける様、意識をお互いに高めている。	法人の理念を基に、地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念をユニットごとに作成している。申し送り時に唱和すると共に、理念の記されたクレドを名札の裏につけ日々確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などを通して、地元のボランティアの方に来て頂いて、入居者様と交流して頂いている。 (ソーラン白岡様、キッズダンス様、オカリナ様)	自治会のお祭りや落語の講演会に利用者が招待されたり、事業所の夏祭りには、多くの近隣住民が参加している。自治会長の協力により、自治会から、町報が毎月届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム行事(納涼祭など)にチラシを配布し、地域の方々にご参加して頂いて、生活の様子を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開いて、地域の方やご家族様にご参加して頂いて、ホーム内の状況をお伝えして日々の様子を情報共有している。	地域包括支援センター職員、自治会長、高齢福祉課、家族、管理者参加のもと定期的開催している。事業所運営、行事、事故、災害対策について討議し、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	お互いに連絡を取り合い、話し合いの場を作り、お互い情報共有することでホームのケアの向上に努めている。	行政関係担当者とは日頃から情報交換を行い、連携して協力関係を築いている。市主催の連絡会や研修会に出席し、サービスの質の向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束ではないか?という通達書があり、お互いに声が掛け合えるように取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、研修を行っている。事業所内に文章掲示することで認識の共有を図り、言葉による拘束もあることを徹底している。自由な雰囲気の中で生活できるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士、声を掛け合い、会議など話し合いの場を作り、ケアの改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で入居時の面談時に、ご家族様の了承を頂いて、金銭管理、書類等のお預かりをさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に話し合いの場を作り、ご家族様のご希望をお聞きして希望に添った体制作りに取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様より、ご意見を頂いたり、アンケートを実施する事で、運営に反映している。	玄関に意見箱を設置すると共に、年1回家族アンケートを行い、集計結果を家族に報告している。電話や面談時に職員が意見・要望を聴取し、全職員がその情報を共有して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別で面談を実施して頂く事で、より良いフロアー、ホーム作りに反映している。	管理者は個別面談を実施したり、日常的にも職員の要望を聞く機会を作っている。定期的なカンファレンスでも意見交換しており、職員の意見を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人の自己評価を行っている。 その事で、自分を評価し、改めて自分を見つめ直す機会を作る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会に参加し、ホームでお互いに勉強会を開いて、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流会を開いて、触れ合う機会や他ホームの見学をさせて頂く事で、とても勉強になりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の意見やご希望を傾聴し、快適に生活して頂けるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様のご希望を取り入れて、本人様らしく生活が送れるように配慮に努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活や、本人様の過去の生活歴など、把握し、ご家族様のご希望も大切にしてサービスの充実に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、1人では困難である事を日常生活の中で見極めて、残存能力を活かし、一人一人が役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、ご家族様にお手紙を書いて生活のご様子や身体状況をご報告させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の昔の学生時代のご友人の方が面会に来所して頂いたりしています。お手紙を書いたりしている入居者様もいらっしゃいます。	昔からの馴染みの美容室に行くこと、家族とお墓参り、年末の帰省等馴染みの場や人との関係を継続できるよう支援している。家族や友人の来訪時には、ゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、お互いに不満がある時など、お互いの意見を傾聴し、どちらの意見も聞いて、状況が良い方向へ持って行けるよう体制に取り組みました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お互いの関係性を大切にするため、ご本人様の家族様と連絡を取って、ご様子などお聞きしたり、訪問をさせて頂いたりした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望に答えられるよう傾聴を行った。困難時は、不快な思いをされないように対応に努めた。	ひとり一人の希望は、日頃の会話や表情から汲みとったこと、家族や記録からの情報等を職員同士で交換しながら共有し、本人の意向に添えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人アセスメントを実施して、何がお好きか、昔はどんな事をしておられたのか、把握し、馴染みの物を居室に置いたりして対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り、細かく情報を共有し、快適に過ごして頂けるように配慮に努めました。身体状況に変化が見られたら、医療と連携もしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週刊モニタリング、3か月に一度のモニタリングを実施して、スタッフ同士アイデアを出し、ご家族様にご相談し、本人様の希望に添えるように努めた。	本人、家族の意向を尊重し、医師の意見も取り入れ、担当者と職員が会議で検討している。定期的なモニタリングの他、状況に変化が見られるときは、随時介護計画を変更し現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況、行動、発言など見落とさず、お互い情報共有しながら話し合い、より良い生活を送って頂けるように努めた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御入居者様の訴えや、日々生活の状況の中で何を必要としておられるのかとスタッフは見落とさず、ご家族様の協力等して頂いて、本人様を支えることに努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等がある時は、地域の人達に、事前に連絡をし、地域の皆様との交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月二回。急変があった時などは、すぐにかかりつけの医師と連絡を取り、適切な指示をいただけるようにしています。	協力医による月2回の往診診療を受けることができる。入居前に利用者・ご家族の要望を確認し、希望するかかりつけ医の受診支援をしている。現状は、ほとんどの利用者が協力医の往診を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が気になっている所をすぐに相談できる関係になっていて、受診が必要な時はすぐに対応できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院の担当の方と常に話し合いを持ち、その人が退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態を、ご家族様にお伝えし、話し合いの場をもち、方針を共有できるようにしています。	入居時に、重度化した際の方針を本人、家族と話し合い確認している。非常勤の看護師がおり、24時間連絡が取れるようになっている。急変した場合は、家族・医師・事業所にて話し合い、事業所として出来る範囲の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	こういう場合には、このように。と常にフロアの中で話し合い、誰かがその場にも対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の人たちの協力を交えながら、訓練をして、避難している。また、消防士からの指導も受けている。	年2回、夜間想定を含め避難訓練を実施している。地域住民の参加もあり、避難時の見守り、避難場所について地域の協力を得られる体制を整えている。水消化器の使用訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が今まで生活をされてきた環境を大切にしながら、個人に合わせた対応を心掛けています。	職員は利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。特に否適切用語についてはアンケートを実施し、勉強会で理解を深めている。個人情報記載の書類保管にも細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と常に会話を心掛け、会話や態度の中から、思いや希望を見つけ出してあげたり、聞き出す心がけを持っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態を常に見守り、一人一人の希望を受け入れられるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に、洋服を選び、着替えのお手伝いをしたりしています。また、朝は必ずご自分で櫛を入れられない方には、髪をとかし、身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房さんのお手伝いに、野菜の皮むきに行ったりして、役割を果たして頂いています。声をそろえて、全員「いただきます。」と言い、食事をとっています。	食事は、皮むきや配膳・下膳、食器洗い等を職員と一緒にやっている。畑でとれたサツマイモ・トマト・茄子等を食材にしたり、ケーキや手打ちそば等を一緒に作り、楽しめる食事も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房さんに、食事に変更が必要な時はお話をして、その人に合った食事を提供しています。水分量は一日の水分量として常に正確な数値を出しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして確認をしています。毎月2回の歯科往診があるので、歯科の先生から指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、パットの使用を減らすよう心掛け、トイレにてして頂く事が気持ちいいという感じを忘れないようにしています。	介護記録や排泄チェック表、動作、表情から個々の排泄パターンを把握している。それとなく誘導するなど、トイレでの自立排泄に向けて支援している。特に、誘導の際の声掛けには職員の配慮が伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便があったか、ないか申し送りをし、排便がない方には腹部マッサージをしたり、看護師に腸の動きをみて頂いたりしています。食事の後には、トイレ誘導をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調、様子を見て、利用者様が入浴したいという希望を取り入れています。	個々の希望に合わせて、午前・午後と希望で入浴出来る様にしているため、夕食後に入浴する人もいます。安全第一で、ゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯等により季節ごとの楽しみを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じ、居室で休んで頂けるような環境に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロア内にて、利用者様の薬について理解している。 薬の変更の時は、とくに注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が得意にしていること、気に入っていることはスタッフが理解し支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様に情報を提供して頂き、利用者様の興味のある場所にお連れしています。	利用者の体調や天候に配慮しながら、基本的に毎日散歩に出掛けている。畑作りで日常的に戸外に出て五感刺激を行ったり、近隣のスーパーへの買い物に出掛け、生活の活性化に繋げている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、全部金庫で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話を掛けたい、連絡を取りたいときは、すぐに電話を掛けられる状態になっています。手紙ははがき・切手を一緒に買ってきて書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるようにしています。掃除をする日をきちんと決めて、居室はいつ、誰がきてもきれいになっています。	室内に飾ってある利用者手作りの作品や絵画は、生活に潤いをもたらせている。採光、換気、温湿度は最適であり、季節により掲示物も入れ替えている。梅・菜の花など季節的なものを持ってきて飾るなど、くつろげる状態を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチにクッションを置き、座りやすくして、気の合った利用者、スタッフで話が出るような環境にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様と相談しながら、部屋の配置を考え、ご本人様を使い勝手の良い居室になるよう心掛けています。	馴染みの家具や仏壇を持ち込み、利用者の生活スタイルを活かしながら、居心地良い居室となるよう工夫している。畳に布団利用も自由に選択可能であり、その人らしい個性的な居室にしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、自分の居室など、わかりやすい目印をつけて間違いをなくしています。居室の電気をご自分でつけたり、消したりできるようにひもを長くしています。		